



# 箱根駅伝への道

## 山梨学院大学陸上競技部 2025-26

### 第102回

## 箱根駅伝ドキュメント

### 「シードを狙えるチーム」が見せた可能性

予選会を好内容の3位で通過し迎えた第102回箱根駅伝。2年目を迎えた大崎悟史駅伝監督の想定を上回る成長速度で「シードを狙えるチーム」に成長した山梨学院大が、超・高速化した新時代の波にもまれながらも健闘した。総合17位ながらチーム新記録をマーク。次大会以降へ、シード獲得の可能性を見出す大会になった。



8区で区間9位の好走を見せた松岡一星

### 憧れではなくつかみ取りに行った

第102回大会の山梨学院大は、現コースで初めて11時間を切り、10時間58分20秒でゴール。往路の5時間27分28秒も自校新だ。ただ、好天も手伝って大会全体がかなり高速化しており、これを評価するには他校との比較も必要だ。

前回大会と比べ、優勝記録は3分45秒、シードラインは1分02秒の上昇。これに対し、山梨学院大は前回大会比11分20秒、従来の自校記録に対しては5分22秒の上昇幅だったから、客観的評価としても成長したと言えるのである。

それにしては、順位の面では前回の18位から今回の17位へ、1つの上昇にとどまった。データを照らした時に、大崎悟史監督が「もやもやします」とこぼす気持ちもうなずける。ほかに山梨学院大の前進を裏付ける事象がある。戸塚中継所5位通過は2018年・4位通過以来、往路12位は2013年・11位以来の好成績。また、往路新のトップと10分以内に芦ノ湖へ駆け込み、復路は時差スタート（4年ぶり）。中継所での繰り上げスタートを回避し大手町まで自校のタスキを運んだ（3年ぶり）。

しかしこれらを示しても、選手たちに喜びはなかった。17

位の中継から、関東学生連合を含む6チームを抜いて往路12位に持ち込んだ5区・弓削征慶。「よくやってくれた、ありがとう」と声をかけるチームメイトに、「いや、ダメだ!」と悔しさを爆発させた。

繰り上げ回避する位置で鶴見中継所に飛び込んだ9区・和田瑛登は「後で家族に『回避したね』と言われて『そうだったんだ』と思った」とのこと。それよりも自身の走りのふがいないさを語り悔しがった。

そう、チームに共通して流れる感情は「悔しさ」である。

大崎監督は「悔しい思いしか残らなかった。選手たちみんな

も同じ思いでしょう」と話し、しかしながらそこにチームの成長があるのだと言葉を続ける。「憧れのシード権」ではなく、シードを取るチャンスをつかみに行き、叶わなかったことに発生した悔しさなのだ。

### チームに通底する悔しさが成長の証

大崎監督は就任時、「シード権は選手たちの思いを組んで目標にはしますが、甘くはない」との認識。シードラインは10年ほどでおおよそ20分レベルアップしている。その第一ステップになる前回大会で、その「甘くはない」目標を下方修正する



1区  
平八重 充希  
法学部4年  
鹿兒島・鹿兒島実業高出身

「かなりハイペースでしたが、その準備もしてきましたし仕方ないという感じ。きつい場面で監督の声が聞こえてうれしかったです。自分の持っている以上の力が出せる大会。区間順位が去年から落ちたことに少し悔しさもありますが、1区としての役割は果たせました!」



2区  
BRIAN  
キビエゴ  
経営学部3年  
ケニア・カプカテット高出身

「良い体調でしたが、ヒザにケガがありました。平八重さんの今季最高の仕事によって、チームを押し上げるために十分な位置でした。予定通りのペースでした。ラスト3kmは、強いチームの集団が後ろにいることを知っていたので、さらに追い込みました!」



3区  
占部 大和  
スポーツ科学部3年  
福岡・九産大九州高出身

「調子もよく、ペースも悪くなかったのですが、周りあまりにも速かったです。目標タイムで走っても対等に戦えない現状を感じました。もう1度3区に挑戦したい。それには5000m13分40秒前後、10000mも27分台が見えるような位置を求めて取り組んでいきます!」



4区  
阿部 紘也  
スポーツ科学部2年  
愛知・中部大一高出身

「予選会の疲労から回復させていった状況でしたが、ケガなく順調ではありました。後ろに追いつかれたからは身体がついていかず自分でもどうしたんだらうという気持ちでした。まだまだ自分の身体をよく知れていないと感じ、回復の仕方などがまだまだ自分の課題です!」



5区  
弓削 征慶  
スポーツ科学部4年  
京都・洛南高出身

「焦る展開でしたが、1チームずつ抜いていこうと。無理して追うのでなく抜いていきましたが、中央学院大が見えていたところで脚が止まりました。今回は体力不足でなく天候で脚が冷えました。いい練習ができていた割に去年より3秒よかったです!」



第102回箱根駅伝(2026/1/2~3)  
総合17位 10時間58分20秒  
往路12位 5時間27分28秒  
復路17位 5時間30分52秒

1区	平八重充希	(4)	12)	1.01.33
2区	B・キビエゴ	(3)	3)	1.05.43
3区	占部大和	(3)	18)	1.03.28
4区	阿部紘也	(2)	20)	1.04.46
5区	弓削征慶	(4)	10)	1.12.00
6区	南葉聖琥	(3)	18)	1.00.39
7区	大杉亮太郎	(2)	13)	1.04.07
8区	松岡一星	(2)	9)	1.05.01
9区	和田瑛登	(3)	17)	1.09.51
10区	田原匠真	(3)	18)	1.11.14
補員	J・ムトウク	(4)		
補員	友村 輝	(4)		
補員	傳法谷元	(3)		
補員	平井 翼	(3)		
補員	宮地大哉	(3)		
補員	高橋楓河	(2)		

第102回箱根駅伝予選会(2025/10/18)  
総合3位10時間32分44秒

B・キビエゴ	(3)	2)	1.00.16
阿部紘也	(2)	10)	1.02.09
和田瑛登	(3)	24)	1.02.32
平八重充希	(4)	40)	1.03.01
田原匠真	(3)	100)	1.03.50
占部大和	(3)	117)	1.04.00
大杉亮太郎	(2)	118)	1.04.00
塚本陸斗	(4)	136)	1.04.12
松岡一星	(2)	149)	1.04.19
宮地大哉	(3)	156)	1.04.25
平井 翼	(3)	170)	1.04.31
高橋楓河	(2)	209)	1.04.51
J・ムトウク	(4)		—
南葉聖琥	(3)		—

駅伝は追う側に試練をもたらしがちで、そこを粘り強く追いかけた内容は次につながる。

4区で苦戦した阿部が、翌日の復路で7区の大杉に給水する姿があった。その心の傷はなかなか癒えない中、「自分の身体の状態をよく知る」(阿部)ことに立ち返っていた。そして2月初旬にはレースへの復帰を果たしている。

総合18位から17位へ。その小幡な一歩に大きな可能性が宿っていた。



2区でモグスのタイムを超えたキビエゴ。26年4月5日の関東インカレ・ハーフマラソンでは、大会史上初の大連勝という快挙を達成した

ことなく挑んだことに意義があった。

さらに大崎流のトレーニングの成果が如実に表れ(P8~9を参照)、箱根駅伝予選会を優れた内容で3位通過。そしてシード権を達成可能な目標として本選を迎える。大崎監督が就任時に「4年後にはシードを取れるチームに」と構想していたこと

を思えば、早い前進である。

1区の平八重充希は区間12位に悔しさはあるものの、高速展開の中でまとめたタイム差が2区につながる。2区のブライアン・キビエゴは区間3位・1時間5分43秒の快走で5位へ。占部大和の区間18位はタイムとしては目標通りで、難関の3区で「よく踏ん張ってくれた」と

評価できるもの。ここで期待の4区阿部紘也が区間最下位の大苦戦となってしまったが、そこで力尽きなかったのが今回の山梨学院大だ。

5区の弓削征慶がシードラインに再度接近。単独走になった7、8、9区は、2分程度前にあるシードラインを懸命に追い、10位との差を詰めたり離れたり。



6区  
南葉 聖琥  
経営学部3年  
岡山・玉野光南高出身

「抜かれても前は見える状況でしたが、平地に入ってから離されてしまいました。シード圏との差を広げずに7区に渡すことが目標でしたが、雰囲気に乗ってしまっただけ。調子が良いと思込ませるため、無理にポイント練習の設定を上げたことも失敗でした」



7区  
大杉 亮太郎  
スポーツ科学部2年  
北海道・札幌山の手高出身

「前日にスタミナの必要性を感じてジョグを増やしてプラスの練習をしてきました。苦しい展開でしたが各地点を昨年より早く通過し、そこは1年目よりよかったです。しかも順位で見ると上げることができず、タイムでは区間のチーム記録にあと9秒届かず悔しかったです」



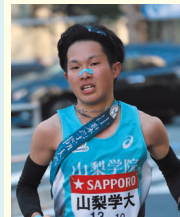
8区  
松岡 一星  
法学部2年  
山形・丸里学園高出身

「ケガもなく順調に練習を積めた1年。予選会は結果を出せませんでした。10000mのペースを約20秒更新していい感覚でした。慣れない単独走でしたが、先導車を見ながらリズムを合わせ、得意な坂で差をつけようと思っていました。もっとスピードをつけていきたい」



9区  
和田 瑛登  
法学部3年  
山梨・山梨学院高出身

「大会前にケガがありました。調子はまずまず。復路に回してもらい、緊張せずに臨めました。『例年区間10位相当の70分は切れる！』と踏ん張っていましたが、70分を切っても区間17位かと……。繰り上げを回避できてよかったとの心境にはなりません」



10区  
田原 匠真  
経営学部3年  
島根・平田高出身

「23kmの距離を恐れて慎重になり過ぎ、攻めたいけど次につながる感じでした。充実した夏を過ごし、予選会で10000mの結果につながりましたが、調子が上がらない時代、代々のキャプテンに声をかけてもらっていました。今度は自分が後輩にしていきたい」



2026年3月。山梨学院大を卒業したキャプテンだった弓削(左)と副キャプテンだった平八重

### ●最後の箱根駅伝

——箱根駅伝のお互いの走りを見ての感想は？

弓削 平八重は去年が区間7位だったので、2区のブライアンに12位でタスキをつないだときは「あー」と思いましたね。しかしタイムを見たら一瞬、理解できないくらいに速かったんです。ハーフの通過は60分台。1区としてすごく良い走りをしてくれたな、と思いました。

平八重 17位で弓削に渡ったので正直、厳しいんじゃないかと思いました。そうしたらどんな順位を上げてきて、途中個人順位も8番くらいになって、キャプテンさすがだな、って興奮しながら見ていましたね。でも芦ノ湖のゴールには険しい顔で飛び込んできて。「ゴメン」って言って、本当に悔しそうでした。

自分たちからしたら、シードに近いところで復路につないでくれて、本当にもうよくやってくれた。競技人生最後の走りの気迫が伝わってきましたね。笑顔でゴールしてくれたらよかったんですけど。

弓削 平八重の言葉を今聞いて、



2年時には弓削が、3年時には平八重が本冊子の表紙となった



ひとりひとりが、未来を灯す。



ひとりひとりが、未来を灯す。  
KANDENKO  
https://www.kandenko.co.jp/

## 弓削征慶 & 平八重充希 3年連続表紙を飾った4年生コンビが 卒業直前に語り合い

「ハーフの通過は60分台。1区ですごく良い走りをしてくれた」(弓削)  
「キャプテンさすがだな、って興奮しながら山登りの走りを見ていました」(平八重)

少しは良かったのかな、と思えてきました。

### ●成長のプロセスは？

——お互いの第一印象は？

弓削 名前が変わっていて、どんな奴なんだろうと思っていたのですが、新型コロナの隔離部屋と一緒にいて、そこで仲良くなりました。話してみたらちゃんとした奴でした(笑)。

平八重 シャベったり、ゲームをしたりしながら過ごして、仲は深まったと思います。1年の頃は2人ともケガが多く、夏も合宿に行けず居残り組でした。腐りそうになりながらも、励まし合ってやっていましたね。

——2年時で2人とも箱根駅伝を走ります。

弓削 周りから期待されるようになったのは、11月の激坂王でした。2番で、箱根の5区が近づきましたね。人生が大きく変わった試合になりました。平八重 夏の練習で上りが強いとは思っていましたが、激坂王を見て、こいつすごいんだな、と思いました。弓削だけ箱根を走らせたくなかったので、自分も頑張って箱根を走ることができました。

弓削 2年時の前半は育成組に入っていたんですが、7月の練習で西湖のハーフマラソンと、上りのタイムトライアルが良く選抜合宿に選ばれました。夏合宿期間中に選抜組に上がることはあまりないので、それがなかったら2年時に箱根を走るのは厳しかったと思います。平八重 より先に箱根を走らんだ、という気持ちは僕もありました。

平八重 お互い負けず嫌いでした。ジョグを個人で走る時も、抜いたら抜き返してきて。勝負するような走りになったりして、困っていました。

弓削 平八重も負けず嫌いで、僕も困っていました。例えばバドミントンで負けたら、勝つまで続けたがるタイプの人間なんです。良いところののかな、とも思っていましたけど。

## ●2人の4年間

—強くなったと実感できた時がありますか？

**平八重** 自分は3年の全日本関東選考会(6月)くらいからです。7月に網走で28分台(28分51秒49)を学年で初めて出した時も、力が付いた実感がありました。チームの要となって引って張って行けたら、という思いも徐々に持ち始めました。

**弓削** 網走のライブ配信を見ていたんですが、平八重が28分台ペースで走っていたので、「早くタレヘンかな」という気持ちもありました。28分台を出された時は背中を強く感じて、悔しかったですね。11月にも28分台で走った時はもう、トラックでは勝てない存在、みたいに感じてしまっていました。

**平八重** 3年生になって基礎がしっかりしてきたからだと思います。2年生からケガなく練習ができて始めたんですが、いっぱいいっぱいになる練習が多くて、離れることもありました。3年生になって出し切る練習がほとんどなくなったこともあって、余裕度が上がって結果が出始めたのだと思います。

**弓削** 僕は3年目まで、長い距離を走る練習はできていましたが、実践的なペースの練習では離れることが多く、箱根の直前だけ練習できるパターンでした。でも4年目はキャプテンになって、試合でチームを引っ張ることができないので、練習の時だけでも前でペースを作ったりしました。きつそうな選手に声を掛けたりしながら、練習を積むことができました。

—後輩へのアドバイスは？



「腹を割って話げできた」と言う弓削と平八重

弓削 征慶	平八重 充希
2年 5区・区間11位・1時間12分59秒	9区・区間22位・1時間13分54秒
3年 5区・区間8位・1時間12分03秒	1区・区間7位・1時間02分48秒
4年 5区・区間10位・1時間12分00秒	1区・区間12位・1時間01分33秒

**弓削** まずは大崎監督を信じて練習することが、近道になります。ネットで色々な情報が飛び交っていますし、不安を感じることもあると思いますが、僕も監督を信じてやってきました。

**平八重** みんな箱根を走りたい思いで入学してくると思うのですが、最大目標をぶらさず、常に持ち続けてやっていくことが大事だと思います。素直な選手が一番伸びると思うので、弓削が言ったように監督を信じて、素直に受け入れることが大事なな、と思います。

—チーム内のコミュニケーションはしっかりできていた？

**平八重** 弓削は3年生までは自分に集中してやっていましたが、キャプテンになって嫌われ役に、自らなってくれました。

**弓削** 良くなかった面も文字に残したいのですが、4年生にはもっと頑張ってた。朝練で決められたコースを走らなったり、ポイント練習に参加できなかったり。箱根へ

の熱量が足りなかった。

**平八重** 弓削は厳しいとも言いましたが、コミュニケーションはしっかりとっていましたね。走れていない人に対してもしっかりしていました。後輩たちはあり

## ■4年間箱根を走れなかった選手も笑顔で卒業

塚本陸斗は3回の予選通過に貢献したが、箱根駅伝本選には一度も出場できなかった。16人のエントリーから外れることが決まった12月10日の午後の練習からは、マネージャーとしてサポートを始めた。

「選手だったら絶対にわからなかったことに、気づくことができました。この選手はこういった頑張り方をしている、この選手はケガをして大変なのにこうして乗り越えようとしている。人として成長できました」

外れた選手がサポートに回ることで、チ

がたかったと思いますよ。特に1年生は嬉しかったようで、笑顔で弓削に話しかける姿も見ました。

—どんな4年間でしたか？

**平八重** 4年間きつことも、陸上嫌いになりそうなこともありましたが、小さい頃からの夢だった箱根駅伝を3回走ることができました。同学年の仲間がいて、特に弓削とは腹を割って話すことができ、競い合いながらも、自分にとっては欠かせない存在でした。

**弓削** 3回箱根駅伝の舞台に立つことができましたが、平八重がいたから頑張ることができたと思っています。上手くいかないことも多かったですけど、楽しいこともあって。山梨学院大で、このチームだから頑張ることができました。良い4年間だったと思っています。

ームの一体感は明らかに違ってくる。

「結果には後悔ばかりですが、山梨学院大を選択したこと、学びがあった4年間は、すごく良かったと思います」

塚本のような選手が笑顔で卒業できるのも、山梨学院大の良さである。



25年度の4年生たち。右端が塚本

## Data Room

# 上昇した記録の数々

### ●箱根駅伝で11時間切り

山梨学院大は箱根駅伝総合成績において学内記録を大幅に更新。従来の11時間4分02秒を6分近くも塗り替え、10時間58分20秒をマークした。2~3頁でも触れたように、現コースで初の11時間切りだ。

箱根駅伝の長い歴史において、10区の距離延長が成される前の旧コースで初の11時間切りを果たしたのは1994年の山梨学院大。32年を経た今は時代の波を追いかけている。

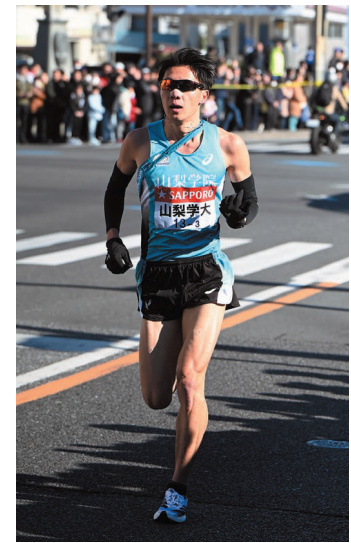
往路も4区の苦戦がありながら大幅なチーム新。前回大会のタイムを3分35秒塗り替えた。2区を終える戸塚中継所以降、すべての中継所を過去最速で通過した。

自校記録を大きく前へ進めたのだが、これを自画自賛に終始するわけにいかない。というのも、今大会では14校が自校新記録をマーク。学生界全体の高速化が進行し、それに「遅れを取らず食らいついた」との評価が妥当だ。

を更新し、それらを含む7区間で歴代3位以内にランクインした。

山梨学院新記録は、2区のブライアン・キビエゴ(3年)と5区の弓削征慶(4年)。寮でルームメイトの2人がその名を刻んだ。キビエゴの2区1時間5分42秒は、かつての箱根駅伝2区区間記録(2009~2019年)に君臨したメクボ・ジョブ・モグスのタイムを22秒更新するもの。弓削は前回大会の自らのタイムを3秒塗り替えた。

学内記録が目と鼻の先だったのが1区の平八重充希と9区和田瑛登。平八重が学内記録にあと1秒、和田はあと5秒に迫った。大会の区間上位ではないながらも、高速レースに後れを取らなかった区間が多い。3区の占部は区間18位ながら学内記録としては日本人歴代2位のタイムをマーク。区間の中間値に対して僅差にとどめたことが大きい。



占部大和は3区でチーム日本人歴代2位のタイム、5000m13分台をマーク

### ■箱根駅伝各区分・山梨学院歴代上位~往路~

※=旧コース

(1区)

- ①中村祐二 1.01.32 95年
- ②平八重充希 1.01.33 26年
- ③井幡政等 1.01.40 94年

(2区)

- ①B・キビエゴ 1.05.42 26年
- ②M・モグス 1.06.04 09年

：

⑩高瀬無量 1.09.03 10年(日本人1位)

(3区)

- ①O・コスマス 1.01.38 12年
- ②井上大仁 1.02.56 15年
- ③占部大和 1.03.26 26年

(4区)

- ①P・オニエゴ 1.02.15 21年
- ②北村惇生 1.02.46 23年
- ③和田瑛登 1.03.07 24年

- ※カリウキ 1.01.32 03年
- ※井幡誠等 1.02.00 95年

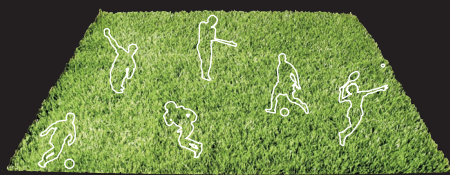
(5区)

- ①弓削征慶 1.12.00 26年
- ( ) 1.12.03 25年
- ( ) 1.12.59 24年

- ②上田健太 1.14.28 17年
- ③井上大仁 1.21.11 14年 23.2km

- ※森本直人 1.12.33 03年

## フィールドの開拓者。



## アストロスポーツ株式会社

すべてのアスリートのために。

アストロスポーツは、人工芝のパイオニア。スポーツフィールドのトータルコーディネーターとして、多彩なニーズにお応えする豊富なラインナップをご用意し、製造、施工からアフターサービスまでトータルにご提案いたします。

www.astro-sp.com

〒105-0014 東京都港区芝1-11-11

TEL:03-4218-9342 FAX:03-6685-4923

## がんばれ！山梨学院大学



クレーン  
杭打工事  
各種土木工事  
解体工事、他



## 株式会社坂本建運

山梨県甲府市富士見1-22-11  
〒400-0027 055-253-1000

■箱根駅伝各区分・山梨学院歴代上位～復路～■

(6区)		
①日影優哉	59.06	21年
②矢島洸一	59.25	22年
※広瀬諭史	59.28	93年
(7区)		
①石部夏希	1.03.58	23年
②大杉亮太郎	1.04.07	26年
③國増尚吾	1.04.38	95年
(8区)		
①古田哲弘	1.04.05	97年
②阿部紘也	1.04.25	25年
③松岡一星	1.05.01	26年
(9区)		
①阿部竜巳	1.09.46	14年
②和田瑛登	1.09.51	26年
③黒木純	1.10.18	94年
(10区)		
①篠原楓	1.09.49	23年
②兼子侑大	1.10.09	15年



和田は9区で学内記録にあと5秒。ハーフマソン1時間1分35秒は日本人大学記録

■2025年自己記録チーム内ランキング(日本人)■

5000m	
①占部大和	13.54.90
②宮地大哉	14.08.92
③平八重充希	14.10.80
10000m	
①平八重充希	28.37.08(24年)
②宮地大哉	28.41.65
③大杉亮太郎	28.49.18
ハーフマソン	
①和田瑛登	1.01.35
②阿部紘也	1.02.09
③平八重充希	1.03.01



7区でチーム歴代2位の大杉亮太

●個人記録は今後に期待大

2025年の学生界は酷暑などが影響し、4～7月期のトラックに気象条件に恵まれたトライアルレースがほとんどなかった。この時期に個人記録をあまり伸ばせなかった大学が多い。その中で、山梨学院大も飛び抜けて目立つ成果はなかったものの、地力の伸長を示す自己ベストが生まれている。5000mでは占部大和が日本人では一人13分台へ。10000mでは、4月に宮地大哉、阿部、占部が、11月に大杉、田原匠真が新たに28分台をマーク。新学年移行時に日本人の28分台は平八重1人だった状態から、「28分台選手6人+27分台の留学生2人」として箱根駅伝本選に臨んでいた。

2025年度卒は平八重1人なので、新シーズンは「28分台5人(日本人)」からスタート。これを大学史上初めて「10人」にもっていくことが、選手たちのモチベーションになっている。ハーフマソンでは和田が自己ベストを2分以上伸ばし1時間1分35秒へ。卒業後、マソンで活躍している井上大仁の1時間1分39秒を超え、歴代日本人トップに立つ。箱根駅伝予選会ではチーム戦略を優先する中で8人が自己ベスト。11月の上尾ハーフマソンは来季を睨む選手たちが出場し、ほとんどの選手が自己ベスト(あるいは初レース)とあり、今後の上昇を予感させる。

Step Up  
チーム大崎 2年目から3年目へ



合宿地でもある西湖の練習コースに集合した26年度チーム

●時間のかかる取り組み

大崎悟史駅伝監督の就任により2024年度にスタートした現体制。大崎監督が打ち出したものの一つに、トレーニングのコンセプトを大きく変えたことがある。一つのトレーニングで「出し切る」ことは求めず、疲労度の小さい状態で翌日を迎え、日々の連続性を重んじる。強く追い込む練習を減らす一方、ジョグの質を引き上げる。トレーニングの抑揚を小さくし、日々の連続性の中で循環器や脚の力を引き上げていく。一度のトレーニングにより身に付く成長の皮は薄く、即効性は低い。よって、時間がかかると思われた。それにしては、成果の表れが早かったと言える。取り組みか

ら1年も満たない2024年10月、箱根駅伝予選会3位通過は、新しい山梨学院大トレーニングの浸透を示すもの。村上大樹主将をはじめ当時4年生たちの献身的なリーダーシップがこれに貢献した。個々の選手では、当時3年生だった平八重充希の成長が目される。箱根駅伝予選会、その後の10000m自己新、そして本選の1区7位の好走。続けざまの活躍がチームを明るく照らした。平八重はもともと、日々の練習では目立つことなく、淡々と継続していたタイプ。3年時にかけての練習の切り替えは、むしろ自らの方向性に近づいた面があり、「やりやすかったです」と振り返る。平八重のようにフィットする

タイプはよいが、出し切る練習をしたい選手もいる。大崎監督は選手の希望は尊重するスタンスだ。平八重がいち早く成果をあげ

る一方で、多くの選手が水面下で持久力の足場を築いたのが1年目。大崎体制2年目になると、平八重現象が下級生たちにも波及していくのである。



大崎監督初年の2024年、夏合宿で走り込む占部大和、平八重充希ら。新しい山梨学院大の練習が軌道に乗り出した。

お悩みはありませんか?  
「マド」と「ドア」

YKK APが「マド」と「ドア」の  
リニューアルで解決します!

使いやすいデザインや断熱効果も  
グレードアップ。新しい「マド」と「ドア」  
が、快適な住空間を実現します。

施工は  
18  
程  
で完了!

※1住戸あたり

YKK AP株式会社 ビル本部 東日本統括支社  
首都圏支社 山梨支店 山梨県甲府市下石田 2-11-11  
TEL.050-1702-0336 https://www.ykkap.co.jp/

●がんばれ YGU●  
私たちは、山梨学院大学陸上部を応援します。

空気と水で未来を築く

株式会社 新光設備工業 https://www.shinko-sk.jp  
〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町669-1 TEL 055-237-0297 FAX 055-228-5420



阿部紘也は予選会でチーム2位、個人総合10位(日本人3位)の学生トップ水準の活躍。余裕を持ってこなせる練習の水準が上がった。

### ●夏合宿の質が1年前を上回る

2025年度、5月の全日本大学駅伝予選会は転倒のアクシデントが2つも起こり落選した。選手たちは肩を落としたが、「悲観する内容ではなかったです」と大崎監督は言う。

土台を作ったうえで迎えた夏合宿。大崎監督は1年前のスケジュールを踏襲することにした。「昨年の流れをマンネリはよくないので、合宿の練習を昨年から大きく変えることも考えました。しかし昨年の流れを踏襲することで、成果を実感できますから」

これが狙い通りに。余裕を持ってメニューをこなしていく。選手たちの側から「設定タイムを上げたい」と申し出があった。大崎監督はこれを承諾し、昨年

を上回るレベルの練習を、昨年より余裕を持ってこなし切ることができたのだ。

個人レベルでは故障などで立ち上げが遅れた選手はいたものの、それらも予選会の時期には集約され、質の高いチームにまとまった。

予選会は3位通過。総合順に



弓削征慶から田原匠真へ、新旧キャプテンが襷を引き継いだ



新チームのテーマを発表する新チームメンバー。左から副主将の占部大和、主将の田原匠真、主務の田中邦彦。

は昨年と同じだが、トップ通過の大学とわずかに21秒差と内容に秀でた。本選では一部に応用的な課題は出たものの、超・高速化した大会の中でタスキをつなぎ切り、総合タイムは自校新をマークした。

### ●3、4年の層が厚い新チーム

大崎流を導入してから2年、時間をかけて心肺機能と脚力を高めてきた世代が、主力に台頭してきた。

新4年生は予選会エントリーに7人、出走が6人。本戦は8人がエントリーし、5人が2、3、6、9、10区に出走している。田原匠真が主将となり、「甲斐青覇～富士のふもとから頂へ～」を新テーマに掲げた。性格穏やかな指揮官を、選手たちの上昇志向が突き上げる構えだ。

最上級生は昨年夏以降の充実を予選会の好走で表した田原、スピードが武器の占部大和、1年時から主力の和田英登、トラックで進境を見せた宮地大哉、下りの適性が強い出された南葉聖虎ら、多士済々だ。

また、新3年生も伸びている。

阿部紘也がやはり最注目選手で、1年時の予選会と本選、2年時の予選会で高いパフォーマンスを見せた。大一番の強さにスポットが当たる一方、大崎流トレーニングから成果を体現した選手である。「夏合宿で余裕を持って昨年以上の質と量をこなしたことが予選会の走りにつながりました」と阿部は話す。

そんな阿部がライバル視する同級生が2人。大杉亮太郎は高校時代の実績は阿部を上回り、阿部のブレイクに刺激を受ける実力者だ。2度目の本選7区で、区間のチーム記録にあと9秒と迫った。もう一人は本選8区9位と一歩むけた松岡一星。実績で先行する阿部と大杉が、「練習量では松岡にかないません」と話す。大崎悟史監督も「将来のユースに」と期待をかける面々である。

1区平八重、5区弓削征慶が卒業。箱根駅伝本選へ応用力が高かった2人の穴をカバーするには、総合力のベースを引き上げたい。ここ2年の取り組みを続けながら余裕度の水準を上げ、持久力の薄い皮を積み重ねて厚い皮を身に纏っていく。



西湖の周囲コースを走る選手たち

## 風光明媚な西湖コースなど、練習コースが充実 太良峠コースの採用で山登りの人材発掘へ

「ロード走には一番良いコースです」と大崎悟史監督。「大切な5km3本もここでやっていますし、起伏も少しあるので箱根駅伝本番も想定した練習ができます。標高も900mで空気も薄いので、良い負荷になります」

5km3本は9月の第3次夏合宿で行ったメニュー。24年は「1本目を15分ヒト桁、2本目も15分ヒト桁で走って、3本目が15分切り」だった。それが25年は、「1、2本目の15分ヒト桁は同じですが、3本目が14分20秒くらいで4～5人が来て、あとは14分30秒台が多く、最後の選手も14分50秒」だった。箱根駅伝予選会に向け、大きな手応えを感じた練習だった。

また7月には、ハーフマラソンのタイムトライアルを西湖で行う。弓削征慶は2年時に、そこで好走して育成グループから

山梨学院大のトレーニングは、川田グラウンドや緑が丘陵上競技場など、通常の練習場所を発着点とするコースをいくつも取ることができ、バリエーションに富んだものになっている(右ページの表参照)。

緑が丘陵競技場は寮から近く、主に朝練習で使用している。荒川河川敷をジョグすることが多いが、朝練習以外はオフとなる

日曜日に、起伏の激しい昇仙峡を走る選手もいる。

本練習でよく使う川田グラウンドは、6レーンの全天候舗装トラックでスピード練習を行うことが多い。ロード練習(距離走やジョグ)はどちらも起伏がありながら、特徴の異なる2つのコースを利用できる。

御使南公園は寮から車で30分の距離にあり、起伏のある不

整地とアスファルトを交互に走ることができる。日陰が多く、陽射しが強い日でも問題ない。

実業団チームも多く活用している西湖が、寮からマイクロバスで1時間弱の距離にあることも、山梨学院大の利点と言えるだろう。単日の練習として寮から行くこともあるが、西湖近くのホテルに宿泊して合宿で活用することもある。

## 気軽に集まり コミュニケーションが取りやすい寮生活

山梨学院大の寮生活の良さの1つに、コミュニケーションを取りやすいことがある。1つの部屋に集まって映画を観たり、食事を作ったりする。

26年度寮長の楳本勝紀(4年)

は、廊下が散らかっているのを注意するなど、締めるところは締める役割も担うが、「どの部屋も鍵をかけるに、自由に入ることができます。気軽に話ができ、自然とコミュニケーション



キャプテンの田原匠真の部屋に集まり、プロ野球中継を観戦しながらあれこれ話しかる選手たち

私たちは山梨学院大学陸上競技部を応援します!

スポーツ施設用器具メーカー

**T N**

**テイエヌネット株式会社**

〒136-0071 東京都江東区亀戸4-45-15  
TEL: 03-3637-3232 FAX: 03-3683-2580  
URL: www.tnnet.jp E-mail: info@tnnet.jp



大学、図書館、企業など、知に関わるあらゆる分野の方々へ 学術情報と課題に対応するソリューションのご提供により、教育・研究を支援するベストパートナーを目指します。

書籍・学術資料の提供、大学キャンパス、公共施設、図書館等施設のデザイン・設計・施工、大学売店運営・図書館運営・アウトソーシング等

**MARUZEN-YUSHODO**  
〒104-0033 東京都中央区新川1-28-23

丸善雄松堂株式会社  
URL <https://yushodo.maruzen.co.jp>

強化グループに上がっている。日常とは少し違う環境ということもあり、試合に近い緊張感で走る。選手の力を見極める場ともなっているのだ。

そして新しい練習コースが26年に入って加わった。甲府市の北部にある太良峠(昇仙峡の東側)コースである。これまでも昇仙峡コースで箱根駅伝の



太良峠コースを走る南葉(右)と松岡

山対策をしてきたが、さらに傾斜が急なコースを活用できるか、現在試している。

導入を提案した阿部竜巳コーチが、次のように経緯を話す。「創部当初に使っていたこともあったのですが、私が学生の頃(2010年台前半)も、故障者

まだ3月に一度練習しただけだが、26年箱根駅伝8区を走った松岡一星(2年)は、導入に積極的な姿勢を見せている。「5区よりも勾配を体感できると思います。ジョグで走っても気持ちか折れそうになりましたが、メンタル部分のトレーニング

参考にはならないと思います。ブレーキをかけるような走りになってしまいます」と、6区を想定した練習にはならないという。

大崎監督は「箱根駅伝の登り対策だけでなく、強化の意味でも良いかもしれません」と今後

#### 山梨学院大の練習コース

コース	発着点	距離	コースの特徴
荒川河川敷コース	緑が丘競技場～荒川橋	片道8km	平坦
昇仙峡コース	緑が丘競技場～寮	15km、25km	標高約720mの仙娥滝まで上って、下ることができる
ほつたらかしコース	川田グラウンド発着	片道8km、12km	傾斜は激しくないが、上り下りが連続する
ぶどう山コース	川田グラウンド発着	片道4kmのほかわり	距離は短い傾斜が急のコース
太良峠コース	山梨大学グラウンド発着	片道約10km	標高1100mの太良峠まで急勾配のコース。下りは走るとは難しい
御勅使南公園		周回2km	大きな起伏が続くクロスカンтриーコース
西湖コース	西湖根場浜駐車場発着	周回9.8km	標高約900mの湖畔を走るコースで平坦だが起伏もある。景色が良い

のりハビリメニューで活用していました。主務にコースを見せて、『1回やってみましょう』という意見だったので、次に竹ノ内佳樹コーチにも見ていただきました。賛同を得られたので、大崎監督に提案しました」

グになりますね。昇仙峡は5区前半の緩やかな上りを想定した練習になり、太良峠は脚がキツくなる5区中盤以降を想定した練習になると思います」

山下りの6区を走った南葉聖琥(3年)は、「下りは急すぎて、

の活用法を検討している。山のスペシャリストだった弓削が卒業し、その後継者の育成も26年度シーズンの課題となる。太良峠コースの活用に向きとなる松岡をはじめ、候補者が何人も育っていくのではないかと

がとれている」と話す。自由に話ができる雰囲気があれば、不満が生じた時に意見を言いやすい。心のどこかに不満を抱えていると、練習を思い切りすることができなかつたりするのだ。

8畳ほどの部屋を2人で使うが、必ず上級生と下級生の組み合わせで生活する。「上級生は下級生を育て、下級生は上級生を見て育ちます。1年に一度部屋替えをしますが、主将と主務

で案を出し合って、競技力向上につながる部屋割りをしています」(田中邦岳主務)

法学部の楯本は毎週800文字のレポートを提出しているが、この曜日のこの時間に書く決めてはいる。同部屋の選手がテレビを見ていたり、遊びに来ている選手がいたりしても、その時間は集中してパソコンに向かうことができるという。

2名の留学生も、留学生同士ではなく、日本人選手と同部屋

にしている。日本人が留学生に生活の仕方を教えるのだが、文化の違いも互いに学べることが多い。



勉学優先の山梨学院大。レポートを書く時は集中する

寮の一室には竹ノ内佳樹コーチも住み込んでいる。寮生活を管理しているわけではないが、「すれ違う時の表情や食事の仕方、小さな変化に気づいてあげられる」と竹ノ内コーチ。「打ち解ければ選手の方から話をしてきます。そうやって信頼関係を築いた上でアドバイスをした方が、理解度が深くなります」山梨学院大の寮生活には、ストレスを感じずに成長できる要素がいくつもある。



株式会社アルソア 慧央グループ

〒408-8522 山梨県北杜市小淵沢町2961 free call 0120-301-742

## ARSOA

心を動かす、その挑戦を  
私たちは応援しています!

輝く笑顔をささえる  
アルソアのスキんケア  
インスタグラムで情報発信中!

アルソア公式  
インスタグラム  
@arsoa\_official



# サンリオが山梨学院大 陸上競技部のスポンサーに。 「可愛いキャラクターと一緒にいることで、自分らしい走りを」



3月9日にサンリオ本社を表敬訪問した山梨学院大の選手、スタッフ。後列左から5人目がサンリオの中塚亘専務取締役

サンリオと山梨学院大陸上競技部との間で、25年10月にスポンサー契約が結ばれ、選手たちは箱根駅伝予選会、箱根駅伝本選と、サンリオの企業ロゴとハローキティを胸に走った。サンリオのコーポレートブランディング部シニアマネージャーの鶴谷哲司氏に、サンリオのスポーツ支援についての思いを取材した。

### ●ハローキティへの反響

反響は大きかった。新キャプテンの田原匠真(3年)は、箱根駅伝予選会で声をかけられたことが忘れられないという。「他大学のファンの人にも『応援しているのは〇〇大だけど、キティちゃん可愛いよね』などと声を掛けられました。他大学の選手からも『キティちゃん、いいよね』と言われました」

そういった声は、サンリオにも届いていた。鶴谷氏は「多くの方から『応援しています』という声がありました」と明かす。「本選でも付けて走るんですか? 箱根にはキティちゃんが応援に来るんですか? など、様々な声をいただきました」

「サンリオはキャラクターを通じて、様々な商品や企業とのコラボレーションを展開し、それぞれの魅力を伝えてきました。

### ●“みんななかよく”を 駅伝でも

サンリオがなぜ、山梨学院大の駅伝をサポートするのか。サンリオの企業理念である“みんななかよく”や、ハローキティのリボンに込められた「なかよしのしるし」という意味が、駅伝で仲間とつながるの在り方と重なることも、今回の背景の一つだという。

「サンリオのキャラクターには人に寄り添う側面もある」ということを鶴谷氏は強調する。「1人で走っている時に雰囲気は敵と思えるキャラクターが出てきましたが、その相手を倒すのでなく、仲良くなることでみんなが幸せになるんです。仲間の大切さを改めて実感しました」

サンリオのサポートを受けた山梨学院大のチームワークが、より強くなっていく。



25年10月にサンリオと山梨学院大陸上競技部のスポンサー契約が結ばれ、記者発表が行われた。

目に入り、自分を取り戻すことができたら嬉しく思います」

その時走っているのは1人でも、駅伝と一緒に頑張ってきた仲間の存在が力になる。走っている最中にハローキティを見ることで、仲間の存在を感じることもできるだろう。

「仲間とつながっている駅伝は“みんななかよく”の世界だと思います。仲間とタスキをつなぐ駅伝は、サンリオのキャラクターとも重なるところのあるスポーツです」

山梨学院大の選手たちは3月に、サンリオ本社を表敬訪問した。「中塚亘専務の“みんななかよく”という言葉は、駅伝の世界でも大切にしたいと感じました。チーム内で意識の差があったり、方向性がズレたら上を目指せません。色んな人たちのつながりも大切にしたい」(田原)

ハローキティに会えるテーマパーク、サンリオピューロランド(東京都多摩市)にも足を運んだ。キャラクター・ショーに、サンリオの目指す世界を感じられたという。「ショーには、最初は敵と思えるキャラクターが出てきましたが、その相手を倒すのでなく、仲良くなることでみんなが幸せになるんです。仲間の大切さを改めて実感しました」

サンリオのサポートを受けた山梨学院大のチームワークが、より強くなっていく。



ハローキティが山梨学院大選手とともに箱根駅伝を駆け抜けた。写真は9区のと田坂登



25年7月の日本選手権5000mで6位(13分43秒73)に入賞した森山

## 森山は日本選手権 5000 mで6位。 井上はMGC3回連続出場を決める走り

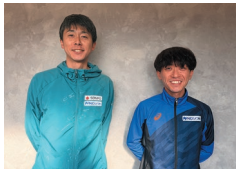
森山真伍(YKK)はニューイヤーマラソン1区の影響が強い選手だ。22年区間2位、24年区間7位、25年区間10位で、いずれも区間賞とは小差で走ってきた。だがそれ以上に評価されているのがトラックでの活躍だ。日本選手権5000mでは22年

の5位入賞に続き、25年も6位に入賞した。22年頃はジョグのスピードを学生時代よりも抑え、ポイント練習の質を上げていた。しかし今は、「ジョグの量を増やして、土台作りをしっかり行っています。学生時代に戻った感じだ」という。

## 渡邊監督率いるNDソフトが 全日本実業団ハーフマラソン団体優勝

山梨学院大OBの渡邊清敏監督率いるNDソフトが、各大会で好成績を出し始めている。

A・ムティソンはマラソンで2時間3分台を持ち、ロンドンマラソン優勝など世界トップラン



NDソフトの島津(右)と渡邊監督

25年11月の東日本実業団駅伝2区を走るムティソン。先輩のムティソンと比べるとまだまだだが、渡邊監督は「自己管理ができて練習を継続できています。3年間で成長してきました」と評価する



## 25年度も 山学OBたちが活躍



井上大仁(三菱重工)は26年2月の別大マラソンで、2時間07分36秒の5位。初めての高地合宿場所(豪州フォールズクリーク)で強度の高い練習を行ったが、一定の結果を残し今後への期待を大きくした。19年、23年に続き、27年10月開催のMGC(マラソン・グランドチャンピオンシップ。翌年の五輪代表3枠のうち1〜2人が決定)出場権を獲得した

山梨学院大3年時にジョグの量を増やし、4年時にはジョグの質も高くなった。それを実業団レベルで再度行っている。今後は5000mだけでなく、27分59秒90が自己記録の10000mでも、「27分30〜40秒」を狙って行くためだ。

そのトレーニングに変わってきても、スピードが必要な5000mで日本トップレベルの走りができる。その理由の1つとして「大学時代に中距離プロ

ックの練習に参加したこと」を挙げる。「同学年に800mで日本選手権に優勝した瀬戸口大地がいて、彼の動きを見てスピードへの余裕度を持って走っていることに気づき、自分なりに練習に落とし込みました」その練習の一例として、森山は400m4本3〜4セットのインターバル走を挙げた。以前は1セット目を68秒4本、2セット目は66秒4本、3セット目は64秒4本、4セット目はフリーで行っていた。それを最近では66秒で入って64秒、64秒、62秒で1セット目を終えて、2セット目を以降も66〜62秒で繰り返す。

「セットの最後を62秒で終わると、次のセットの1本目の66秒で余裕を持てます。一度上げて落とすことで、力みがなくなる感覚が出てきて、5000mの好結果につながりました。1周目が62秒で入っても、65秒の感覚で走ることができま

す」山梨学院大でのトレーニングを、現在のレベルと課題に合わせて行ったことで、日本トップレベルの走りが可能になった。

ナーに成長した。荒生実慧は2時間7分台、竹内竜真は2時間8分台を、渡邊監督が就任した23年以降に出している。

26年2月の全日本実業団ハーフマラソンではB・ムルアが2位、島津裕太が14位と、山梨学院大OB2人が上位を占め、NDソフトが団体優勝した。

学生時代の島津は1年時に、箱根駅伝3区(区間16位)を走ったが、2年時以降は出場できなかった。練習はしていたが、何かが噛み合わなかった。NDソフト入社1年目はケガで練習がつかならなかったが、補強やケアを地道に続けて2年目の秋から上昇に転じている。

NDソフトでは「指示を待ち、やらされている受動的な練習で

はなく、この練習で強くなるんだ」と思える主体的な練習になるように選手と相談して練習を進めている」と渡邊監督。スタッフが2人しかいないため、メニューを個々で行うことはできないが、選手の意見を聞いて設定タイムなどに落とし込んでいる。

「学生時代に上田誠仁監督(当時)から、食材は単なる材料で、どうやって味付けをするかが重要だと教えられました。焼くのか蒸すのか、考えてやることで自分の力になると。自分の経験を押しつけるのではなく、選手たちに考えさせてあげたい」

山梨学院大の息吹が感じられる実業団チームが、また1つ誕生した。



## 上田誠仁元監督が退職

26年3月に定年退職した上田誠仁元監督。最終講義にて講堂を埋めた学生たちと

## 時代を先駆け数々の偉業

上田誠仁顧問兼中距離コーチが定年となる2025年度末に退任した。19年に監督を退き、全体の陸上部監督を経て22年から顧問および中距離コーチを務めた。

1985年の監督着任から41年経つ。その時間を共に歩んだ秋山勉さんが、25年12月に亡くなった。上田さんが最終講義の演壇に立った日の翌日である。最終講義の成功を待ってくれた

かのような旅立ちに、「最終講義をやらせてくれて……。ドラマ以上の筋書きです」と上田さん。秋山さんが当時順大監督の沢木啓祐さんにかけた電話から、上田さんの指導者人生が始まった。

部員数名での発足から、箱根駅伝予選会を2度目の挑戦で突破する電光石火。初シードまで5年、初優勝まで7年。箱根駅伝に晴れ渡るブルーの旋風を巻

き起こした。学生駅伝の枠にとどまらず、日本のトップ、世界に飛び立つ選手を次々と育成。教え子たちはとりわけマラソンで活躍し、中村祐二、尾方剛、大崎悟史、松村康平、井上大仁らが日本代表に。中距離から競歩まで、ディスタンス種目で多岐にわたる活躍を導いた。大きな才能を送り出しつつも、上田さんの信念は甲府の地を足場にした「チーム作り」にあった。メンバーから外れた4年生が翌日、爽爽と朝練習に現れた。



監督として34年、その後もグラウンドに立ち続けた

## 上田監督時代(1985〜2018年度)の記録

- 【箱根駅伝】
    - 総合優勝3/往路優勝3/復路優勝1
    - 3位以上10(2位5/3位2)
    - シード権獲得21
    - 出場32、連続出場32、区間賞33
  - 【全日本大学駅伝】
    - 3位以上15(2位10/3位5)
    - 8位以上27
    - 出場30、連続出場24、区間賞34
  - 【出雲駅伝】
    - 優勝6(歴代1位)
    - 連続数5(歴代1位)
    - 3位以上14(2位6/3位2)
    - 出場21、区間賞23
  - 【インカレ】
    - 関東インカレ優勝種目数 82(1部46・2部33・女子3)
    - 日本インカレ優勝種目数 23\*
- \*監督退任後の1つ(2024年800m)を含む



- 【国際大会など(卒業生含)】
  - オリピック代表4名(三森由佳、柳澤哲、尾方剛、大崎悟史)
  - 世界選手権代表5名(8回)(中村祐二、三森、柳澤、尾方、大崎)
  - アジア大会メダリスト4名(柳澤、大崎、松村康平、井上大仁)
  - ユニバーシアードメダリスト5名(橋ノ口滝一ら)
  - 日本新記録、日本最高記録(三森、柳澤、藤原勇)
  - 学生新記録(井幡、モグス、藤原)
  - 全日本実業団駅伝連優勝監督(黒木純)
  - 全国高校駅伝優勝監督(高見澤勝)
  - 全日本中学駅伝優勝監督(小川健太)

私たちの生活を  
もっと安心安全に

エコア株式会社は  
安心安全な生活のために  
環境改善施工・システムを  
ご提供しています。

食品安全管理 住環境管理

害虫忌避 ベストガード

エコア  
オリジナル商品

害虫捕獲モニタリングOK  
フライデットS

ビルメンテナンス 感染対策

除菌対策システム  
超音波噴霧器 FOGX

がんばれ！  
山梨学院大学陸上競技部

●エコアのe-shop  
http://www.ecoshop.com

本社 / 〒199-0021 東京都立川市羽衣町 1-5-15  
山梨事業所 / 〒400-0053 山梨県甲府市大里町 2062 TEL:055-241-1755

エコア株式会社  
http://www.ecora.jp

がんばれ 山梨学院大学 !!

創造のパートナー

**和泉産業株式会社**

甲府市徳行二丁目3-20

セメント建材部 TEL 055-222-1151 代  
硝子サッシ部 TEL 055-222-1152 代  
食器厨房部 TEL 055-222-1153 代  
フードサービス部 TEL 055-222-1154 代  
FAX 055-222-7777 代

山梨学院を応援しています

未来につなぐ Smile & Technology

**鶴田電気株式会社**

YAMANASHI SDGs PROJECT

【本社】〒400-0032 山梨県甲府市中央4-5-23  
TEL.055-235-1581 FAX.055-222-1901

【東京支店】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-4-8-811  
TEL.03-6417-0058 FAX.03-6417-0258

スポーツ用品・体育器械・全般

**有限会社 甲府スポーツ**

山梨県甲府市武田3-1-9

TEL 055-252-6556 FAX 055-252-6553

asics. mizuno adidas UNDER ARMOUR new balance.

Sawrio

Play Smile.  
スポーツで、未来に笑顔を。

株式会社サンリオは山梨学院大学陸上部を応援しています。

© 2020 SANRIO CO., LTD. TOKYO, JAPAN  
著作権 株式会社サンリオ

技 匠 絆 和

真心と確かな技術

株式会社 **早野組**

HAYANO SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

本社 〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10  
TEL.055-235-1111(代) FAX.055-235-1109

■営業本部 TEL.055-232-8686  
■早野リパブル TEL.055-268-3333

■東京支店 TEL.(042)667-8800  
■中部支店 TEL.(0265)22-3969  
■新宿営業所 TEL.(03)3352-8700  
■静岡営業所 TEL.(0544)66-5454